

## 知的障害特別支援学校幼稚部におけるオンライン授業及び教材教具の有効性と課題

—— 臨時休業中における学校場面と家庭場面を通じて ——

○飯島徹・若井広太郎・根岸由香・藤島瑠利子

筑波大学附属大塚特別支援学校

KEY WORDS: オンライン授業 教材教具 臨時休校中の取組

【問題・目的】文科省(2020)は、「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」において、臨時休業等により児童生徒が授業を十分に受けることができないことによって、学習に著しい遅れが生じるのではないよう、学校が指導計画等を踏まえながら、教科書及びそれと併用ができる紙の教材、テレビ放送、オンライン教材・動画、同時双方型のオンライン指導を組み合わせた家庭学習を課すとともに、登校日の設定や家庭訪問の実施、電話や電子メールの活用を通じて、教師による学習指導や学習状況の把握を適切に行い、児童生徒の学習を支援する必要があると述べている。オンライン授業を取り扱った内容は多く報告されている一方で、一人一人の学びの過程や変容等を客観的に整理し、数値化した研究は少ない。本研究では、オンライン授業の取組と教材教具の効果について実証し検討することを目的とする。

【方法】1. 対象児者：知的障害特別支援学校幼稚部に在籍する 10 名及び保護者を対象とした。本研究開始時における対象幼児の生活年齢は、3 歳児 2 名、4 歳児 3 名、5 歳児 5 名であった。主障害は、自閉スペクトラム症とする幼児 4 名、ルビシシュタイン・ティビ症候群 1 名、ダウン症候群 4 名、ウェスト症候群 1 名であった。

2. 事前準備及び調査：臨時休校に伴い 4 月上旬に、家庭学習用 DVD と教材等を家庭に送付した。保護者から家庭での過ごし方に関する相談や生活リズムをつけたいという要望が挙げられた。5 月上旬より、オンラインを活用した授業を開始するということを説明した後、家庭での情報機器の有無や環境が整っているのか確認した。次に、オンライン機器の操作や手順が記載してある学級通信と歌紙芝居カードの教材を家庭に郵送した。今年度入学した幼児のご家庭と情報機器操作に慣れていないご家庭に対して、個別にオンラインを通じて説明や体験をして頂き、安心して取り組めるように配慮した。

3. 指導期間・指導場面：X 年 4 月から 8 月までの約 5 ヶ月間、オンライン及び所属教室で実施した。緊急事態宣言が 5 月末に解除した後、6 月より感染予防対策をした上で分散登校、7 月より一斉登校となった。分散登校や一斉登校の期間中は、オンラインを通じて保護者が授業参観できるように配信した。指導場面は、朝の会（あつまり）を対象とし、約 40 分程度実施した。

4. 手続き：分散登校及び一斉登校期間は、学校と家庭の双方型のオンライン授業を行った。保護者から、Zoom ミーティングの画面の一部に、歌紙芝居を提示して欲しいとの要望があり、背景画の一部に、パワーポイントで作成した歌紙芝居を提示し、画面上でも見えやすいようにした。また、ビデオカメラの台数も 2 台へと増やし、授業全体の様子を分かりやすく見れるように工夫した。

5. 記録：Zoom ミーティングの録音記録を基に、朝の会における歌のリクエスト場面を対象（注視している時間：人、画面、他）に持続時間法を用いて算出した。模倣する回数は、インターバル・録音記録法を用いて算出した。家庭場面における保護者の参加状況（支援行動の変容）も上記と同じく算出した。7 月末の保護者会

において、オンライン授業の取組について口頭でのアンケートを実施した。

6. 倫理的配慮：本研究の実施と公表にあたっては、保護者に研究の趣旨ならびに個人情報やデータの取り扱いについて口頭で説明し承諾を得た上で、所属校の学校長および研究倫理委員会へ書面で提出し承認を得た。

【結果】図 1 に歌紙芝居（カレンダーマーチ）や人に注目している時間及び模倣回数（学校と家庭場面）を示した。A 児、B 児、D 児は、今年度入学した幼児であった。

学校場面：分散登校期間中は、歌紙芝居や MT に注目することが多かった。一斉登校期間では歌紙芝居や MT に注目しつつ、他の教員や友達に注目することが増えた。分散登校期間に比べて、一斉登校期間において、模倣する回数が微増した。家庭場面：事前にカレンダーマーチの絵カード（教材）を配布した。分散登校期間及び一斉登校期間の両期間において、絵カードと母親に注目する時間が多かった。

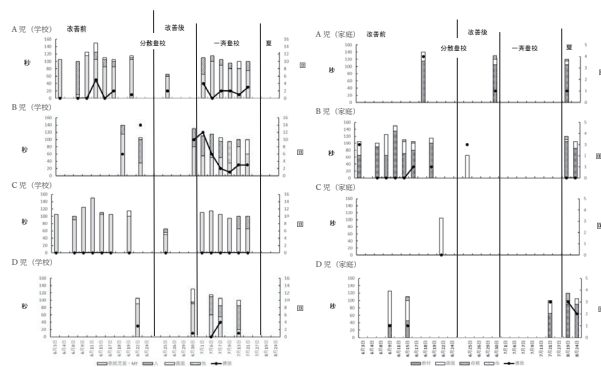


図 1 歌紙芝居や人に注目している時間及び模倣回数

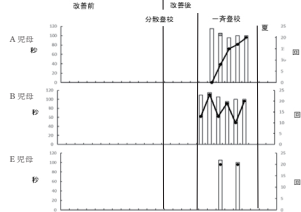


図 2 母親の支援行動の推移

図 2 に家庭場面における母親の支援行動の推移（モデル回数）を示した。一斉登校期間では、母親がカレンダーマーチの手遊びを一緒に取り組む回数が増えた。

【考察】学校場面における分散登校期間では、歌紙芝居や目の前にいる MT に注目する時間が多かった。一斉登校では、模範となる教員や幼児が増えたことで、模倣しようとする姿へと変容する可能性があると考えられる。家庭場面では、手元に教材があることで、子どもが集中して学んでいる姿を見て良かったとアンケート結果から得られた。オンラインだけの配信だけでなく手元に教材があることで、学びの保証につながり有効的であると考えられる。今後の課題として幼児に実態により、画面を見続けるための対応や方法を検討していくことが課題として挙げられる。

【文献】文部科学省（2020）新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン文部科学省ホームページ,2020 年 6 月 11 日。

(IIJIMA Toru, WAKAI Kotarow, NEGISHI Yuka, FUJISHIMA Ruriko)